

最も小さい民主主義を家族の中に

小「地域探検から『父親』の授業へ

高橋 武昌



一、「地域探検」をどうしてやることになったか

生活科で「校区」の学習をすすめようとなりました。

「みなさんのおうちのとなりのおうちは、何という苗字ですか」と聞くと何と十八名の子は知りません。ついで「近所の出来事を教えてね」というと、

・となりのシベリアンハスキーがうるさい。いつもは寝てばかりいる。

・となりの家を作っていて、大型の車がいていま、遠まわりをして家に入ります。

・となりの家からおいしそうなにおいがしてきた。

等々と誠に心許ないのです。やっぱり二年生なりに、自分の家（そして自分）と、近所のつながり、自分の住んでいる学区の様子、とりわけ自分と関わりあいを持つ学校、塾、公園、友達宅、他様々な場所を知り、新しい視点でそれらとのつながりを深めてほしいと教師は願いました。

もう一つ、地域のことを知るとき、クラスの友達がどういう所に住んでいるかを調べ、そことつながりを深め友達関係をひろげてあげたいとも思いました。子ども達の友達関係は限定されており、約束をしなければ、交流もできない状態も変えていかななくては、と思



さあ、地域たんけんに出発

っていました。

何人くらいの友達の家にいけるか。

二人の家 六名

三人の家 一名

四人の家 二名

五人の家 一名

六人の家 三名

七人の家 四名

八人の家 一名

九人の家 一名

他

意外に友達の家に行ったことないし、行けないので

す。

「ねえ、あすから三回にわけて、クラス全員で、みなさんの家、一軒残らず探検に行こう」子どもは拍手大かっさい。

二、クラス全員で一軒一軒を訪問する

①後藤くんの家

学校に一番近い後藤くん宅につくと、本人が「みんな静かにして／＼」と言います。本人に質問すると「ぼくのお父さん大体夜十二時ごろ帰ってくるからまだ寝ているんだよ。静かにしないと困るんだ」と。教師は、「上田くんや片桐くんのように、朝、仕事に出ていって夕方帰ってくるお父さんもいるけど、昼ごろ仕事に出て、夜中まで働いているお父さんもいるんだね。いろいろなお父さんがいるよー」とつけ加えました。

②溝井さんの家

「ごめん下さい」とみんなで呼ぶと二つある玄関のひとつからご夫妻が出てきました。「ああ、いいんだ、お父さんがいる」と。昼間は普通でないことの多いお父さんが在宅です。さっそく子どもの質問。「どうして玄関が二つあるのですか」「はい、こちらはお客様さんのところ。私は設計の仕事をしています」「溝井さんのお父さん、博士みたい／＼」（メガネをかけていた

りして、子どもにはそうみえたみたい)「溝井さんのお父さんは、設計のしごとを家でしているというけど、おやすみするときどうするんですか?」子どもは増々、このお父さんに興味を示したようです。

③米谷さんの家

二階建ての十世帯位が入っているアパートです。入口がみな同じで、子どもはおもしろがりました。米谷さんのお母さんがまっててくれました。

「下ですか、上ですか」(階のことをきいている)

「犬を飼っているのですか」(大変関心が高い)

「みんな同じアパートですが、お父さんは夜ぐらくなくて帰るとき、自分の家とよその家をまちがえませんか」

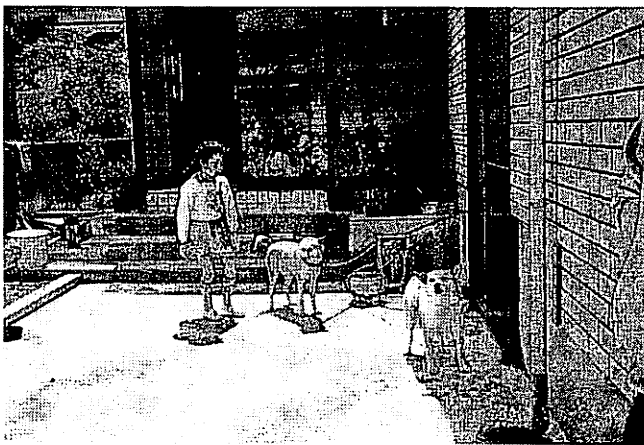
等々質問がです。「うちのお父さんね、おさけ飲んで帰ってくるとき、よそのお宅に入ったことあります」とお母さんが答えると、みんなドッと笑います。米谷さん(子)は、とてもうれしそうに聞いていました。この子は、後で学級で「わたしの家では、絶対犬を飼ってくれないので、いやです。はやく、犬が飼える家に住みたいです」と願いを述べています。

こんな風にして三十名全員の家を歩きました。二年生のPTAの役員さんも、是非、地域をいっしょに歩

きたいとのことで好意的に協力してくれました。又、私たちが訪問するというので、冷たい水などを用意してくれていたり、小鳥をみせてくれたりしました。

一番子どもが興味を示した家は斎藤さんのお家でした。(写真にもあります)

全員が玄関の前に立つと犬が二ひきもいるではありませんか。それも、かわいい犬が。「和代ちゃん、犬



かずよさんの家に2ひき犬がいるんだって

だれが飼ってくれたの」「うん、うちのお父さん大好きだもんね」「へえ、いいお父さんだなあ」とみんなは感嘆しています。二ひきも犬を飼ってくれる和代ちゃんのお父さんでどんな人なんだろうという具合です。ちょうど、その頃、和代ちゃんの日記は次のようなのが出ましたので、国語の時間にみんなで読み合い話し合いました。

文集「すぎな」№16

お父さんのことをかんがえる

作文のかんしよう その1

ゆうえんちへいった

さいとうかずよ

きょう、おとうさんが おしごとお休みとっておかあさんと三人でやすだアイランドへいったんだよ。すごーくたのしかったよ。

あさ 9じ30ぶんから5じまでいたんだよ。なんかいもおなじのりものにつたよ。なかでもジェットコースターが一ばんたのしかったよ。おとうさんはいつもいっしょにのったけど 3じから4じまでひるねをしたよ。おとうさんはベンチでねていました。手をあたまにあてていました。そのあいだ、おかあさんとおかいものやゲームをしてあそんだよ。

おかあさんが、

「また、いっおとうさんの休みがとれるかわからないから、おとうさんのあまーいあまーいえきすをいっばいすっておきなさい」

っていうの。わたしは、

「どっちでもいい」

といいました。そして、

「せんせいにおとうさんのえきすいっばいもらってこんなにふくらんだよっていいなさい。ほっぺをなめてもらったら」

っていわれました。でも、ぶたになったらいやだな、しんばい。

「きょう一日だけ かずよのおもいどおりにしてやるぞ」

っておとうさんが目をさましていったので、らっきいな一日でした。また、お父さんの休みこないかなあ。

やっぱり、犬を二ひきも飼ってくれる和代さんのお父さんはすごーいという事になりました。やすだアイランドにまる一日、つきあってくれるお父さんに関心が集中しました。

三、「父親」についての授業を一挙に進める

学級は、『お父さんのあまーいエキスさがし』を実

践しました。いっしょに風呂に入ってくれる父、あそんでくれる父、勉強を教えてくれる父、夜中に帰ってきてそっとそばに寝てくれる父、出張先から電話をくれる父……と多くの父親のより添う姿を発見させました（父のいない美穂、亡くなった正夫にも配慮）。

下田くんのお母さんより便りが——『父の日が近いせいか最近、お父さんの宿題が多いようです。実は家庭の事情で四月より約五か月、父は、大阪の方にいます。こういう宿題がでるたびに、あつし（子）も私も困っていますので、お考えいただけないでしょうか……』

私もすこし気持ちひるみましたが、こういう時、あつし君がどうしていくか見守ることにし、お母さんにお詫びと私なりの授業の意義を訴えました。

又、お父さんは様々な仕事を、様々な形態でしていて、同じことをしている人はほとんどいません。それで一体どんなところで、どんな仕事をし、どんな気持ちでいるのかを調べてみることにしたのです。

ゆりこ 「しょくひんかんけい」

“おとうさんのしごと”

ホテルや旅かんなどに一びんりょうりを作って売る

しごと・一びんりょうりのデザインを考える・冷とう食品をつくっている

“おとうさんのしごとでおもったこと”

お父さんは、たくさんしごとがあつて、夜おそくかえってきたりとおくにしゅっちょうします。たくさん、すいみんをさせてあげたいです。（絵は省略）

あやこ 「クレインのうんでん手」

“おとうさんのしごと”

東こうの船のてっぺんについているクレインをうんでんしています。そして、おもーいものを持ち上げて、大きな波をふせぐばうはていを作っています。わたしは、東こうにいてみました。

“おとうさんのしごとでおもったこと”

高いところだからおちこちたら大へんだと思う。気をつけてほしい。うんでんをまちがわないでほしい。20メートルもあるかいだんをこけないでほしい。（絵は省略）

一人ひとり、画用紙に記入してきた絵と文を発表しました。そこで、自分のお父さんに何をしてあげたいか発表してもらいました。

「タバコはかならずかいにいてやる」「お父さん

になったのです。自らの手で投函しました。

さて、どの子も心をこめて書きました。お父さん達
はとてもよろこびました。そのよろこびを、父親たち
は、こんどわが子あての便りを書いて、ポストに投函
しました（十三名の方）

埼玉へ単身赴任している

雄太くんのお父さんからの便り

日よう日はぐろうさまでした。ぶじに家にかえ
りましたか。かえりのしんかんせんの中で、おべん
とうをたべましたか。今おとうさんはテレビをみて
います。ひとりなのでつまらないです。ゆうたくん、
おとうさんがいないぶんだけお母さんのいうことを
よくきいてたすけてあげてください。かたづけやべ
んきょうなど、よろしくたのみます。おとうさんも
あしたからおしごとがんばります。6/24にはい
がたにかえます。おげんきでね。

ゆう太さま

父より

四、すこしのまとめ

地域探検から始まり親と子の授業になってしまいま

した。①どの子もお父さんはまじめに働いているとみ
ています。②そのお父さんの為に子どもなりに家族の
一員として何とかしてやりたいと考えている（ゆっく
りねかせてやりたい他）。ここには身近かな人へのあ
たたかい思いやり、小さな民主主義の基本を感じとっ
ています。③いろいろな仕事に従事していることが分
かった。④さいごにお父さんを誇りにしているのです。
お父さんが作った船・佐渡汽船に乗ってみたいとか、
お父さんのようにデザイナーになりたいとか。ここに
信頼しあい、その影響を受け合って生きる家族の姿が
あります。

忘れるところでしたが、父親の宿題をやめてほしい
と要求した下田君のお父さんから、実は大阪へ行って
初めて、本人に電話があったのです。勿論お母さんが
夫に電話したのでしょう。「先生、きのうお父さんか
ら電話あったんだよ。夏休みに帰れるらしいって。」
この子の輝いたうれしそうな顔が忘れられません。

（たかはし たけまさ 南中野山小）

